

いごいのみぎわ
天路歷程 ジョン・パニヤン

第53話

2022年11月20日～11月26日 各家庭でのディボーション用テキスト

無知者 一体あなたはどんなものを善い考え、神の戒めに従う生活と考えるのですか。

基督者 善い考えにはさまざまな種類があります。自分自身に関するものもあり、神、キリストに関するもの、またその他の事に関するものもあります。

無知者 自分自身に関する善い考えとはどんなものですか。

基督者 神のみ言に一致するようなものです。

無知者 自分自身に関する私たちの考えはいつ神のみ言と一致するのですか。

基督者 私たちがみ言の下すのと同じ判断を自分に下す場合です。私の言う意味を説明すれば、神のみ言は生まれながらの状態にある人間について「義人はいない、ひとりもない」【**ロマ 3:10**】と言っています。それはまた「すべてその心に思いはかることが、いつも悪い事ばかりであるのを見られた」【**創 6:5**】と言っています。さらにまた「人が心に思い図ることは、幼い時から悪いからである」【**創 8:21**】とも。さて、私たちがこのように自分について考えて、それを意識するならば、その時こそ私たちの考えは神のみ言と一致する故に善い考えです。

無知者 私は自分の心がそんなに悪いとは決して信じますまい。

基督者 それだからこそ、君はこれまで自分についてただの一つも善い考えを持ったことがないのです。だが話を続けましょう。み言が私たちの心に判断を下すように、私たちの歩む道についても判断を下します。そして私たちの心と道とについての私たちの考えが、み言の下す判断と一致するならば、その両者はみ言と一致する故に善いものです。

無知者 あなたのおっしゃる意味を証明して下さい。

基督者 いや、神のみ言は、人の道が曲がった道であり、善くなくてよこしまであると言っています。また生まれながら善き道からはずれ、それを知らないでいたと言っています。【**詩 125:5、箴 2:15、ロマ 3:12**】さて人がこのように自分の道を考えるならば、すなわち、彼が賢く、また謙遜な心でかく考えるならば、彼は自分の歩む道について善い考えを持っているのです。なぜなら今や彼の考えは神のみ言の判断と一致するからです。

無知者 神についての善い考えとはどんなものですか。

基督者 ちょうど私たち自身について言ったと同じことで、神についての私たちの考えがみ言の言う所と一致した場合です。つまり、神の存在と属性とをみ言の教えたとおりに考える場合です。それについては今くわしく論じることはできませんが、神について私たちに関係のあることをお話しすればこうです。私たちが神についての正しい考えを持つのは、神は私たちが自分を知っている以上に私たちを知り、私たちが自分の中に何の罪も見出し得ない場合にも、それを見出し得ると考え

る時です。また私たちのあらゆる義も、彼には鼻持ちのならぬものであり、それ故私たちが最もよい行為についてどんな確信をもっていても、み前に立つのは神にとって見るに堪えないものであると考える時です。

無知者 神は自分と同じくらいにしか目がきかないと考えるほどに私は愚か者だとお考えなのですか。それとも私が最も善い行為をもって神のみ許に至ろうと望むとお考えなのですか。

基督者 はて、君はこの事柄をどうお考えですか。

無知者 手短かに言えば、むろん私は義とせられるためにはキリストを信じなければならぬと思っています。

基督者 何ですって、君はキリストの必要を認めないのに、彼を信じなければならぬと思っていますんですって。君は自分の生まれながらの欠点も、現に持っている欠点も認めず、また自分自身とその行為についての君の意見は、明らかに、神の前に義とせられるためにはキリストご自身の義を必要とすることを認めないような意見です。それなのにどうして自分はキリストを信じると言うのですか。

無知者 それでも私は結構信じていますよ。

基督者 どんなふうに信じているのですか。

無知者 キリストが罪びとのために死なれたこと、また私か神の律法に従順であるのを恵み深く受け入れられることによって、私はのろいからまぬがれて神の前に義とせられるということを信じているのです。言い換えれば、キリストはそのいさおしによって私の宗教上の務めを父なる神に受け入れるようにします。このようにして私は義とされるのです。

基督者 君のそのような信仰告白にお答えしましょう。

1. 君は気まぐれな信仰をもって信じています。このような信仰はみ言のうちのどこにもないのですから。
2. 君は誤った信仰をもって信じています。それは義とせられることをキリスト自身の義から奪って自分の義にあてはめているのですから。
3. このような信仰によれば、キリストは君の人格を義としないで君の行ないを義とし、行ないのために人格を義とすることになります。それは誤りです。
4. だから、このような信仰は人を惑わすもので、全能の神のさばきの日には、君を怒りの下におくものです。人を義とする真の信仰は、(律法によってその状態を自覚している) 魂に、避難所としてキリストの義にとび込ませます。(彼の義というのは、義とせられるために、君の従順を神に受け入れられるようにする恩寵の働きではなく、律法が私たちに要求することを私たちに代わってなし、またそのために苦しまれたことによって、ご自身が律法に服従なされたことです。) この義をば真の信仰は受け入れるのです。その裳裾(もすそ)に魂が包まれて神のみ前に汚れなきものとして出され、受け入れられて、劫罰(ごうばつ)からまぬがれるのです。

【ジョン・バニヤン 天路歷程 正篇 より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい